

口腔顎顔面外科学：626-4-DP1・DP3・DP4・DP5・DP6・DP7

年次	学期	学則科目責任者
4年次	通年	*大峰 浩隆（口腔外科学）

学修目標 (GIO) と 単位数	<p>・口腔顎顔面領域にみられる先天異常と発育異常（奇形・変形），損傷，炎症性疾患，口腔粘膜疾患，ウイルス感染症，嚢胞性疾患，腫瘍，唾液腺疾患，顎関節疾患，神経疾患と心因性疾患，血液疾患と出血性素因，全身疾患と症候群は，口腔外科臨床でしばしば遭遇する疾患である。それらの基本的な病態を理解し，臨床所見を把握することは重要，不可欠であり，口腔外科臨床に直結する内容である。そのためにそれぞれの成因，病態，診断学，治療学を学び理解する。</p> <p>・7単位</p>
担当教員	<p>*大峰 浩隆、*西村 均、*田中 茂男、*山本 泰、*濱野 美緒、*飯塚 普子、*山口 桜子、*野田 一、*伏見 習、*芹澤 多恵、*鈴木 麻由、岡田 裕之、*内田 貴之、*金田 隆、*久山 佳代、三枝 禎、*福本 雅彦、*小宮 正道、*宇都宮 忠彦、*末光 正昌、*伊東 浩太郎、*村岡 宏隆、*齋藤 真規、高木 多加志、※鶴澤 一弘、八木原 一博、※酒巻 裕之、※神野 良一、*池谷 美和、*青木 暁宣、*渡邊 駿、※石井 達郎、※釜崎 直人、※菅谷 和之、※野上 俊雄、※村井 正彦、*田島 秀人、*渡邊 由梨子、※北村 英二、張 ウエ嘉、*岩井 聡、※和氣 裕之</p>
教科書	<p>口腔外科学第4版 古郷幹彦 監修 医歯薬出版 口腔外科学第4版 工藤 逸郎 監修 学建書院 標準口腔外科学 第4版 野間 弘康 他 学建書院 サクシント口腔外科学 内山 健志、大関 悟 他 学建書院 サイコ・デンティストリー 歯科医のための心身医学・精神医学 第2版 和氣 裕之 砂書房</p>
参考図書	<p>口腔病理アトラス 高木 實 文光堂 こころの病気と歯科治療 宮岡等、和氣裕之、宮地英雄、依田哲也 デンタルダイヤモンド</p>
評価方法 (EV)	<p>講義・実習を1/5 以上を欠席した場合，評価点は0 - 60 点とする。なお平常試験の再試験は行わない。 評価：平常試験（4 回）と実習・実習試験 によって総合評価点とする。平常試験の結果に応じて，補講などの措置を講じることがある。 実習：実技評価，実習態度（出席状況：院内実習に関連するので、すべて出席すること）で評価する。</p>
学生への メッセージ オフィスアワー	<p>口腔外科領域の疾患は広範囲ですべてが歯科臨床で必要不可欠であり，CBT と国家試験に多くの問題が出題されるので予習・復習をしっかりと行なうこと。臨床実習に向けて基礎的知識を十分に学んでほしい。歯科医師の実務経験を活かし，口腔外科の臨床について説明する。 口腔顎顔面外科学実習書はオリエンテーション時に配布する。</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/04/10 (水) 1時限 09:00~10:30	ガイダンス 口腔外科総論	<p>【授業の一般目標】 口腔顎顔面領域の疾患を説明できるようになるために知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔顎顔面領域の疾患には，どのような疾患があるか述べることができる。 3. 口腔顎顔面領域疾患の治療法を概説できる。 4. 現在まで学習した科目が口腔顎顔面領域にどのように関与しているか述べる ことができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書（口腔外科学4版等）口腔外科総論の項目の熟読する。 事前学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 ア 主な病因・病態 g 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態 ア 主な病因・病態 c 口腔粘膜の疾患 d 軟組織の疾患 e 顎骨・顎関節の疾患 f 唾液腺の疾患</p>	*大峰 浩隆

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/04/10 (水) 1時限 09:00～10:30	ガイダンス 口腔外科総論	<p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患</p> <p>E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患</p> <p>E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常</p> <p>①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (2) 外傷</p> <p>①外傷の種類、特徴及び治癒過程を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (3) 炎症</p> <p>①歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患</p> <p>①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。</p>	*大峰 浩隆
2024/04/10 (水) 2時限 10:40～12:10	口腔外科総論	<p>【授業の一般目標】</p> <p>口腔顎顔面領域の疾患説明できるようになるために必要な知識を学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 口腔外科診断学を理解する。 得られた情報を整理、推理し診断できる。 口腔顎顔面領域の疾患の診察法、問診法、診断法を述べることができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学習項目：教科書（口腔外科学4版等）総論の項目の熟読する。</p> <p>事前学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>アクティブラーニング：無し</p> <p>学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p> <p>202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>歯科医学総論 総論IV 主要症候</p> <p>2 口腔・顎顔面の症候</p> <p>ク 口腔・顎顔面の機能障害</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>歯科医学総論 総論III 病因、病態</p> <p>2 口腔・顎顔面領域の疾患の病因・病態</p> <p>ア 主な病因・病態</p> <p>a 先天異常・発育異常</p> <p>b 歯・歯周組織の疾患</p> <p>c 口腔粘膜の疾患</p> <p>d 軟組織の疾患</p> <p>e 顎骨・顎関節の疾患</p> <p>f 唾液腺の疾患</p> <p>g 口腔・顎顔面領域に症状を伴う全身疾患</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>E 臨床歯学</p> <p>E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患</p> <p>E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患</p> <p>E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常</p> <p>①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (2) 外傷</p> <p>①外傷の種類、特徴及び治癒過程を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (3) 炎症</p> <p>①歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患</p> <p>①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (5) 嚢胞</p> <p>①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患</p> <p>①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。</p> <p>E-2-4) - (7) 顎関節疾患</p> <p>①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。</p>	*大峰 浩隆
2024/04/17 (水) 1時限 09:00～10:30	顔面・口腔の裂奇形	<p>【授業の一般目標】</p> <p>顔面・口腔の裂奇形を説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 裂奇形を呈する疾患について診断できるようになるために、裂奇形を理解する。 裂奇形について説明できる。 唇裂の分類について説明できる。 唇裂による障害について説明できる。 口蓋裂の分類について説明できる。 口蓋裂による障害について説明できる。 顔面に生じる裂奇形の分類を列記できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>事前学習項目：教科書、奇形項目の熟読する。</p> <p>事前学習時間：20分以上</p>	酒巻 裕之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/04/17 (水) 1時限 09:00～10:30	顔面・口腔の裂奇形	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療 b 口唇裂・口蓋裂</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療 a 顔面裂 c 口唇・頬部の異常</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。 ②口唇裂・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。 ④軟組織の異常を説明できる。</p>	酒巻 裕之
2024/04/17 (水) 2時限 10:40～12:10	顔面・口腔の裂奇形	<p>【授業の一般目標】 顔面・口腔の裂奇形を説明できるようになるために、必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 裂奇形を呈する疾患について診断できるようになるために、裂奇形を理解する。 3. 裂奇形について説明できる。 4. 唇裂の分類について説明できる。 5. 唇裂による障害について説明できる。 6. 口蓋裂の分類について説明できる。 7. 口蓋裂による障害について説明できる。 8. 顔面に生じる裂奇形の分類を列記できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書の奇形の項目について熟読する。 事前学習時間：20分以上</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療 b 口唇裂・口蓋裂</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療 a 顔面裂</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。 ②口唇裂・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。</p>	酒巻 裕之
2024/04/24 (水) 1時限 09:00～10:30	奇形・変形	<p>【授業の一般目標】 顎口腔領域の先天および後天性異常を説明できるようになるために必要な知識を学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎口腔領域の先天性および後天性異常を述べるができる。 3. 歯の異常の種類を述べるができる。 4. 歯の異常による障害と続発症、治療法を述べることができる。 5. 口唇の異常（裂奇形以外）の分類、障害、治療法を述べるができる。</p>	*山口 桜子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/04/24 (水) 1時限 09:00～10:30	奇形・変形	<p>6. 舌小帯、口唇の小帯および頬小帯の異常と治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：顎口腔領域の歯の異常、軟組織の異常について調べる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療 d 舌・口(腔)底の異常</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療 c 口唇・頬部の異常 d 舌・口(腔)底の異常 e 歯肉・口蓋の異常</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ④軟組織の異常を説明できる。</p>	*山口 桜子
2024/04/24 (水) 2時限 10:40～12:10	顔面・口腔の裂奇形	<p>【授業の一般目標】 顔面・口腔の裂奇形説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 裂奇形を呈する疾患について診断できるようになるために、裂奇形を理解する。 3. 口唇・口蓋裂の治療方針について概説することができる。 4. 唇裂の手術法を説明できる。 5. 口蓋裂に関する手術法を列記できる。 6. 口蓋裂に関する手術法の目的について説明できる。 7. 口唇・口蓋裂児および家族に対する指導内容について説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：顔面・口腔の裂奇形、顎奇形について、C B T 関連問題のチェック 事前学習時間：60分 事前学習項目：講義内容の復習およびC B T 関連問題の解答 事前学習時間：90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療 b 口唇裂・口蓋裂</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 先天異常と変形を主徴とする疾患の病態・診断・治療 a 顔面裂 b 口唇裂・口蓋裂 c 口唇・頬部の異常 d 舌・口(腔)底の異常 e 歯肉・口蓋の異常</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。 ②口唇裂・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。</p>	*大峰 浩隆

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/04/24 (水) 2時限 10:40～12:10	顔面・口腔の裂奇形		*大峰 浩隆
2024/05/01 (水) 1時限 09:00～10:30	顎骨の異常	<p>【授業の一般目標】 顎骨の変形・異常を説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎骨の変形を呈する疾患を診断し管理するため顎骨異常に対する診断法と治療方針を説明できる。 3. 顎骨の変形を呈する疾患の分類を説明できる。 4. 顎変形症の鑑別診断について説明できる。 5. 顎変形症の治療方針について説明できる。 6. 顎骨の異常における障害, 原因, 治療法について概説することができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目: 教科書、口腔外科学4版で顎顔面の変形の熟読する。 事前学習時間: 30分以上</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無し 学修媒体: マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 顎顔面の変形を来す疾患・病態・診断 a 顎変形症</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 顎顔面の変形を来す疾患・病態・診断 c 顎顔面に異常を来す骨系統疾患・症候群 a 顎矯正手術 c 骨移植術</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常 ①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。 ②口唇裂・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。 ③顎変形症の病態と治療法を説明できる。 ④軟組織の異常を説明できる。</p>	高木 多加志
2024/05/01 (水) 2時限 10:40～12:10	顎骨の異常	<p>【授業の一般目標】 顎骨の変形・異常を説明できるようになるために必要な知識を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎骨の変形を呈する疾患を診断し管理するため顎骨異常に対する診断法と治療方針を説明できる。 3. 顎骨の変形を呈する疾患の分類を説明できる。 4. 顎変形症の鑑別診断について説明できる。 5. 顎変形症の治療方針について説明できる。 6. 顎骨の異常における障害, 原因, 治療法について概説することができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目: 教科書の顎顔面の変形について熟読する。 事前学習時間: 20分以上</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング: 無し 学修媒体: マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 顎顔面骨の変形に対する治療 e 下顎頭形成術</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常及び後天異常</p>	高木 多加志

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/05/01 (水) 2時限 10:40～12:10	顎骨の異常	①口腔・頭蓋・顎顔面に症状を示す先天異常を説明できる。 ②口唇裂・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。 ③顎変形症の病態と治療法を説明できる。 ④軟組織の異常を説明できる。	高木 多加志
2024/05/08 (水) 1時限 09:00～10:30	損傷総論 顎・口腔の損傷 歯の外傷 顔面・口腔軟組織 の損傷	<p>【授業の一般目標】 顎・口腔の損傷、歯の外傷、顔面・口腔軟組織の損傷について述べるができるように学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 損傷の原因、分類、症状、創傷の治癒過程を理解し、治療方針および後遺症について概説できる。 3. 歯の外傷の特徴、分類、臨床症状を理解し、診断および治療方針を概説できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：教科書、口腔外科学4版の熟読。外傷について 事前学修時間：30分事前学習</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 軟組織の損傷の病態・診断・治療 a 口腔軟組織の損傷</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 軟組織の損傷の病態・診断・治療 b 顔面軟組織の損傷</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 ①外傷の種類、特徴及び治癒過程を説明できる。 ②外傷の治療方針（治療の優先順位）を説明できる。 ③歯の外傷と歯槽骨骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ④軟組織損傷の種類、症状及び処置法を説明できる。</p>	*野田 一
2024/05/08 (水) 2時限 10:40～12:10	顎・口腔の損傷 顎顔面骨の骨折 1	<p>【授業の一般目標】 中顔面骨折の分類と症状および治療法について説明できるように学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎顔面骨折の分類、原因、頻度、全身の合併症および好発部位を理解し、概説できる。 3. 眼窩底骨折の症状と治療法を理解し説明できる。 4. 頬骨および頬骨弓骨折の症状と治療法を説明できる。 5. 上顎骨骨折の分類と症状および治療法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：上顎骨骨折および頬骨骨折の分類と症状および治療法について教科書を熟読する 事前学修時間：1時間 事後学修項目：講義で行った外傷の診断および治療法について復習する</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療 d 上顎骨骨折</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療</p>	*田中 茂男

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/05/08 (水) 2時限 10:40～12:10	顎・口腔の損傷 顎顔面骨の骨折 1	b 歯槽骨骨折 c 下顎骨骨折 d 上顎骨骨折 e 頬骨・頬骨弓骨折 f 鼻骨骨折 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 ①外傷の種類、特徴及び治癒過程を説明できる。 ②外傷の治療方針（治療の優先順位）を説明できる。 ④顎顔面骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。	*田中 茂男
2024/05/15 (水) 1時限 09:00～10:30	顎・口腔の損傷 顎顔面骨の骨折 2	【授業の一般目標】 下顎骨骨折の分類と症状および治療法について説明できるように学習する。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 下顎骨骨折の骨折片の偏位について説明できる。 3. 下顎骨骨折の治療法を説明できる。 4. 小児の下顎骨骨折の治療法について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：下顎骨に付着する筋を確認する 事前学修時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無し 学修媒体：マルチメディア 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療 d 上顎骨骨折 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療 e 頬骨・頬骨弓骨折 f 鼻骨骨折 g 口腔上顎洞瘻 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 ④顎顔面骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。	*野田 一
2024/05/15 (水) 2時限 10:40～12:10	顎・口腔の損傷 顎骨内副子固定	【授業の一般目標】 顎顔面骨折の治療で顎骨内副子固定を理解するために学習する。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 観血的整復固定手術、骨切り術、顎骨再建に使用するプレート、ネジ等の特性と適応を理解する。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で外傷の治療法の熟読する。 事前学習時間：20分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器 1 生体材料の科学 ア 材料の種類 c 金属材料 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器	*野田 一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/05/15 (水) 2時限 10:40～12:10	顎・口腔の損傷 顎骨内副子固定	1 生体材料の科学 ア 材料の種類 a 有機材料 d 複合材料 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 ④顎顔面骨折の原因、種類、症状、診断法及び治療法を説明できる。	*野田 一
2024/05/22 (水) 1時限 09:00～10:30	菌性感染症	【授業の一般目標】 菌性感染症について説明できるようになるために学習する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 炎症の概要、局所症状、全身症状を理解し、治療方針を説明できる。 3. 菌性感染症の原因を理解した上で感染経路を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書の炎症を熟読する。 事前学習時間：20分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 軟組織の炎症の病態・診断・治療 a 歯冠周囲炎 (智歯周囲炎) 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 軟組織の炎症の病態・診断・治療 b 口腔・頸部軟組織の炎症 c 所属リンパ節 (領域リンパ節) の炎症 d 菌性上顎洞炎 e 菌性全身感染症 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症 ①菌性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。 ③炎症の診断に必要な検査法を説明できる。 ④菌血症と菌性病巣感染の病態、症状、検査法及び治療法を説明できる。 ⑤消炎療法の意義と特徴を説明できる。 ⑥主な炎症 (舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、蜂窩織炎、菌性上顎洞炎等) の症状と治療法を説明できる。	*鈴木 麻由
2024/05/22 (水) 2時限 10:40～12:10	急性炎症と慢性炎症 (菌性病巣感染、 肉芽腫性炎も含む)	【授業の一般目標】 急性炎症と慢性炎症について説明できるようになるために学習する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 急性炎症と慢性炎症の病理学的特徴を学ぶ。 3. 炎症の経過と病理組織学的変化について説明できる。 4. 急性期と慢性期における炎症性細胞の種類と働きについて解説できる。 5. 炎症と細胞・組織傷害との関連性について述べるができる。 6. 循環障害と炎症との関わりについて説明できる。 7. 修復・再生と炎症との関連性について解説できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：2年・3年の授業プリント、教科書の熟読する。 事前学習時間：20分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施せず 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態	*宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/05/22 (水) 2時限 10:40～12:10	急性炎症と慢性炎症 (歯性病巣感染、 肉芽腫性炎も含む)	1 病因・病態 カ 炎症 a 病因 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因・病態 カ 炎症 b 分類と病態 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症 ②急性炎症と慢性炎症の異同を説明できる。 ③炎症の診断に必要な検査法を説明できる。	*宇都宮 忠彦
2024/05/29 (水) 1時限 09:00～10:30	手術の患者管理 手術の基本手技	【授業の一般目標】 手術の患者管理、手術の基本手技について説明できるようになるために学習する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 手術での患者管理および基本手技について理解する。 3. 顎口腔外科手術で用いられる手術手技を理解する。 4. 手術に際しての全身・局所状態から見た注意点について理解する。 5. 患者へのインフォームドコンセント、手術の適応と時期および術前・術後管理について説明できる。 6. 外科処置の基本である消毒法・滅菌法を理解し、列挙することができる。 7. 切開法、止血法および縫合法の基礎を理解し、その方法を述べるができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 ・事前学修項目：顎口腔外科手術での患者管理 基本手術手技 について教科書および参考図書を熟読する。 ・事前学修時間：25 分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 a 手術の適応と時期 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 c 切開法 f 抜歯、口腔の小手術 総論Ⅴ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 イ 身体的特徴への配慮 エ 医療情報の収集 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-5) 小手術 ③小手術に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。 ⑩周術期の管理の目的と意義を説明できる。	*小宮 正道
2024/05/29 (水) 2時限 10:40～12:10	歯性感染症	【授業の一般目標】 歯性感染症について説明できるようになるために学習する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨髄膜炎、顎骨骨髄炎等の症状、治療方針が概説できる。 3. 歯性感染症である歯性扁桃周囲炎、口底の炎症、頬部の炎症の症状、治療方針が概説できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で炎症の熟読する。 事前学習時間：20分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア 【学修方略 (LS)】	*鈴木 麻由

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/05/29 (水) 2時限 10:40～12:10	歯性感染症	<p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 歯槽骨・顎骨の炎症の病態・診断・治療 c 顎骨骨髓炎</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 歯槽骨・顎骨の炎症の病態・診断・治療 a 歯槽骨炎、顎骨炎 b 顎骨骨膜炎 d 歯性上顎洞炎 e 放射線(性)骨壊死、放射線骨髄炎 f 薬剤関連顎骨疾患 g 外歯瘻、内歯瘻 h 顎骨周囲軟組織の炎症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症 ⑤消炎療法の意義と特徴を説明できる。 ⑥主な炎症(舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髄炎、蜂窩織炎、歯性上顎洞炎等)の症状と治療法を説明できる。</p>	*鈴木 麻由
2024/06/05 (水) 1時限 09:00～10:30	平常試験①と解説 講義	<p>【授業の一般目標】 平常試験① 90分間の試験</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 奇形・変形について説明できる。 3. 口腔顎顔面の損傷について説明できる。 4. 口腔の歯性感染症について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 「口腔外科総論」から「歯性感染症」までの範囲 事前学習項目：授業プリント、教科書の熟読する。 事前学習時間：300分</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p>	*大峰 浩隆 *田中 茂男 *山口 桜子 *野田 一 *鈴木 麻由
2024/06/05 (水) 2時限 10:40～12:10	平常試験①と解説 講義	<p>【授業の一般目標】 平常試験① 90分間の試験</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 奇形・変形について説明できる。 3. 口腔顎顔面の損傷について説明できる。 4. 口腔の歯性感染症について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 「口腔外科総論」から「歯性感染症」までの範囲 事前学習項目：授業プリント、教科書の熟読する。 事前学習時間：300分</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p>	*大峰 浩隆 *小宮 正道 *田中 茂男 *山口 桜子 *野田 一 *鈴木 麻由 *宇都宮 忠彦
2024/06/12 (水) 1時限 09:00～10:30	薬剤関連顎骨壊死 (特に骨吸収抑制 剤関連顎骨壊死)	<p>【授業の一般目標】 薬剤関連顎骨壊死（特に骨吸収抑制剤関連顎骨壊死）について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 主な炎症（骨髄炎）を概説できる。 3. 薬剤関連顎骨壊死の原因分類ができる。 4. ビスフォスフォネート製剤と顎骨壊死について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書の熟読する。 事前学習時間：20分</p>	神野 良一

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/06/12 (水) 1時限 09:00～10:30	薬剤関連顎骨壊死 (特に骨吸収抑制 剤関連顎骨壊死)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 歯槽骨・顎骨の炎症の病態・診断・治療 c 顎骨骨髓炎</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 歯槽骨・顎骨の炎症の病態・診断・治療 f 薬剤関連顎骨疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(3) 炎症 ⑥主な炎症(舌炎、口唇炎、口底炎、智歯周囲炎、歯槽骨炎、顎骨炎、顎骨骨膜炎、顎骨周囲炎、下顎骨骨髓炎、蜂窩織炎、菌性上顎洞炎等)の症状と治療法を説明できる。</p>	神野 良一
2024/06/12 (水) 2時限 10:40～12:10	消炎療法 ①種類 ②作用機序 ③適応症	<p>【授業の一般目標】 顎口腔領域の炎症に対して行う消炎療法について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 消炎療法を理解する。 3. 抗炎症薬の種類を述べるができる。 4. 抗炎症薬の作用機序を述べるができる。 5. 抗炎症薬の適応症を述べるができる。 6. 抗菌薬を理解する。 7. 抗菌薬の種類を述べるができる。 8. 抗菌薬の作用機序を述べるができる。 9. 抗菌薬の適応症を述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：薬理学の教科書の該当箇所を熟読する。 事前学習時間：30分 事後学習項目：授業プリント、教科書の確認をする。 事後学習時間：50分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施せず</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 a 薬物療法の種類と特徴</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 8 薬物療法 ア 薬物の選択 b 薬効 c 薬物動態 a 投与経路と剤形の種類と特徴 b 用量と反応 c 服薬計画・指導 d 薬物の副作用・有害事象の種類・機序・対策 e 薬物適用の注意 a 鎮痛薬 b 抗炎症薬 c 抗微生物薬</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(3) 炎症 ⑤消炎療法の意義と特徴を説明できる。</p>	三枝 禎
2024/06/19 (水) 1時限	肉芽腫性炎 ①分類	<p>【授業の一般目標】 肉芽腫性炎について説明できるようになるために学習する。</p>	*鈴木 麻由

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
09:00～10:30	②病態	<p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 肉芽腫性炎を理解する。 肉芽腫性炎の種類を述べることができる。 肉芽腫性炎の病態を述べるができる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：教科書の肉芽腫性炎について熟読する。肉芽腫性炎の種類と特徴を学習する。 準備学修時間：30分 事後学修項目：講義で習得した内容を踏まえ、歯科医師国家試験臨床実地問題に取り組む。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 軟組織の炎症の病態・診断・治療 f 肉芽腫性炎</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症 ⑦口腔・顎顔面領域の肉芽腫性炎の種類と特徴を説明できる。</p>	*鈴木 麻由
2024/06/19 (水) 2時限 10:40～12:10	口腔粘膜疾患の種類と特徴	<p>【授業の一般目標】 口腔粘膜疾患について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 口腔粘膜疾患を理解する。 口腔粘膜疾患の種類、病態、病理組織学的特徴を説明できる。 水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着を概説できる。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 上皮を形態的および機能的に分類できる。 結合組織の線維要素と細胞要素を説明できる。 皮膚と粘膜の基本構造と機能を説明できる。 口腔粘膜の特徴を部位ごとに説明できる。 準備時間：90分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>パワーポイントを用いて、講義する</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 1 細胞・組織・器官の構造と機能 ア 皮膚・粘膜系 a 表皮・粘膜上皮、真皮・粘膜固有層、皮下組織・粘膜下組織</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 ②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の症状と治療法を説明できる。</p>	岡田 裕之
2024/06/26 (水) 1時限 09:00～10:30	ウイルス感染症	<p>【授業の一般目標】 ウイルスの基本構造と感染メカニズムを説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 ウイルスの基本構造と感染メカニズムを説明できる。 ウイルスの基本構造およびウイルス感染症の発症メカニズムを説明できる。 単純疱疹の病態、診断、治療法を述べるができる。 帯状疱疹の病態、診断、治療法を述べることができる。 ラムゼーハント症候群の病態、診断、治療法を述べることができる。 流行性耳下腺炎の病態、診断、治療法を述べることができる。 	*齋藤 真規

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/06/26 (水) 1時限 09:00～10:30	ウイルス感染症	<p>8. ヘルパンギーナ、手足口病の病態、治療法を述べるができる。 9. 風疹、麻疹の病態を述べるができる。 10. 後天性免疫不全症候群の口腔の病態を述べるができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：ウイルス基本構造、ウイルス感染症、口腔外科領域のウイルス疾患について熟読する。 事前学習時間：30分 事後学習項目：授業プリント、教科書の確認をする。 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無 学修媒体：マルチメディア使用、プリント配布。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因・病態 キ 感染症 b 感染症</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 病因、病態 1 病因・病態 キ 感染症 a 病原微生物</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 感染と免疫 C-4-1) 感染 ①細菌、真菌、ウイルス及び原虫の基本的な構造と性状を説明できる。 ②細菌、真菌、ウイルス及び原虫のヒトに対する感染機構と病原性を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の症状と治療法を説明できる。 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ⑥ウイルス性唾液腺炎の特徴、症状、診断法及び治療を説明できる。 E-2-4) - (10) 口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患 ②口腔・顎顔面領域に症状を現す感染症の種類と症状を列挙できる。 ③口腔・顎顔面領域に症状を現すアレルギー性疾患、膠原病、免疫異常の症状を列挙できる。 ⑩ヒト免疫不全ウイルス(human immunodeficiency virus <HIV>)感染症と後天性免疫不全症候群(acquired immune deficiency syndrome <AIDS>)の口腔症状と検査法を説明できる。</p>	*齋藤 真規
2024/06/26 (水) 2時限 10:40～12:10	口腔粘膜疾患の種類と特徴	<p>【授業の一般目標】 口腔粘膜疾患について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔粘膜疾患を理解する。 3. 口腔粘膜疾患の種類、病態、病理組織学的特徴を説明できる。 4. 水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着を概説できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書、口腔粘膜疾患の項目についての熟読する。 事前学習時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>パワーポイントを用いて、講義する</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 i 口腔扁平苔癬</p>	*池谷 美和

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/06/26 (水) 2時限 10:40～12:10	口腔粘膜疾患の種類と特徴	<p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 a ウイルス性口内炎 b 天疱瘡、類天疱瘡 c 多形(滲出性)紅斑 d 薬物性口内炎 e 全身性エリテマトーデス (SLE) f アフタ性口内炎 g Behçet病 j 口腔カンジダ症 (鵝口瘡) k 白板症 l 紅板症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 ②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする口腔粘膜疾患の症状と治療法を説明できる。</p>	*池谷 美和
2024/07/03 (水) 1時限 09:00～10:30	嚢胞性疾患	<p>【授業の一般目標】 嚢胞性疾患について説明できるようになるために学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 嚢胞性疾患について理解する。 3. 顎骨嚢胞を説明できる。 4. 顎骨嚢胞の種類を述べられる。 5. 顎骨嚢胞の治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：口腔外科、病理学の教科書の熟読する。 事前学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 a 歯原性嚢胞</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 b 非歯原性嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。</p>	*西村 均 *宇都宮 忠彦
2024/07/03 (水) 2時限 10:40～12:10	嚢胞性疾患	<p>【授業の一般目標】 嚢胞性疾患について説明できるようになるために学修する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎骨嚢胞を説明できる。 3. 嚢胞類似疾患を説明できる。 4. 嚢胞の治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：口腔外科、病理学の教科書の熟読する。 事前学習時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア プリント配布</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p>	*西村 均 *宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/07/03 (水) 2時限 10:40～12:10	嚢胞性疾患	202教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 a 歯原性嚢胞 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 軟組織に発生する嚢胞の病態・診断・治療 b 非歯原性嚢胞 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。	*西村 均 *宇都宮 忠彦
2024/07/10 (水) 1時限 09:00～10:30	嚢胞性疾患	【授業の一般目標】 嚢胞性疾患を説明できるようになるために学修する。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 軟組織嚢胞の種類を説明できる。 3. 口腔軟組織嚢胞の種類と特徴を説明できる。 4. 軟組織嚢胞の病理組織学的特徴を説明できる。 5. 口腔軟組織嚢胞の治療法を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書サクシントの熟読する。 事前学習時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア プリント配布 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 エ 軟組織に発生する嚢胞の病態・診断・治療 b 非歯原性嚢胞 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞 ②口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の症状、診断法及び治療法を説明できる。	*西村 均 *宇都宮 忠彦
2024/07/10 (水) 2時限 10:40～12:10	嚢胞性疾患の画像診断	【授業の一般目標】 嚢胞性疾患の画像診断を適切に行うために必要な知識を修得する。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎骨嚢胞の特微的画像所見を説明できる。 3. 歯原性嚢胞の特微像を説明できる。 4. 非歯原性嚢胞の特微像を説明できる。 5. 軟組織の嚢胞の特微像を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：歯科放射線学の教科書の熟読する。 事前学習時間：30分 事後学習項目：授業プリント、教科書 事後学習時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：スライド 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 a 歯原性嚢胞	*伊東 浩太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/07/10 (水) 2時限 10:40～12:10	嚢胞性疾患の画像診断	<p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 b 非歯原性嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (5) 嚢胞 ②口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*伊東 浩太郎
2024/07/17 (水) 1時限 09:00～10:30	歯原性腫瘍	<p>【授業の一般目標】 歯原性腫瘍について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 歯原性腫瘍の分類を列記できる。 3. 歯原性腫瘍の臨床的特徴を説明できる。 4. 歯原性腫瘍の病理組織学的特徴を説明できる。 5. 歯原性腫瘍の治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書サクシントの熟読する。 事前学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 a 歯原性良性腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 c 非歯原性良性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-5 病因と病態 C-5-6) 腫瘍 ①腫瘍の定義を説明できる。 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。</p>	*久山 佳代 *伏見 習
2024/07/17 (水) 2時限 10:40～12:10	歯原性腫瘍の診断と治療	<p>【授業の一般目標】 歯原性腫瘍について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 歯原性腫瘍の分類を列記できる。 3. 歯原性腫瘍の臨床的特徴を説明できる。 4. 歯原性腫瘍の病理組織学的特徴を説明できる。 5. 歯原性腫瘍の治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書、口腔外科学4版、歯原性腫瘍の熟読する。 事前学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施せず</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p>	*久山 佳代 *伏見 習

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/07/17 (水) 2時限 10:40～12:10	歯原性腫瘍の診断と治療	<p>歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 e 骨関連病変</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 f 線維骨性病変 g 巨細胞性病変 a 顎骨腫瘍の外科療法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ④腫瘍類似疾患の種類と特徴を説明できる。</p>	*久山 佳代 *伏見 習
2024/08/21 (水) 1時限 09:00～10:30	平常試験②と解説講義	<p>【授業の一般目標】 平常試験② 90分間の試験</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 炎症について説明できる。 3. 口腔の粘膜疾患について説明できる。 4. 顎口腔領域の嚢胞性疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 「薬剤関連顎骨壊死」から「歯原性腫瘍の診断と治療」までの範囲 事前学習項目：授業プリント、教科書の熟読する。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施せず</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 a 歯原性嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症 ①歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。 ②急性炎症と慢性炎症の異同を説明できる。 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 E-2-4) - (5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*大峰 浩隆 *西村 均 *伏見 習 *鈴木 麻由
2024/08/21 (水) 2時限 10:40～12:10	平常試験②と解説講義	<p>【授業の一般目標】 平常試験②</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 炎症について説明できる。 3. 口腔の粘膜疾患について説明できる。 4. 顎口腔領域の嚢胞性疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 「薬剤関連顎骨壊死」から「歯原性腫瘍の診断と治療」までの範囲 事前学習項目：授業プリント、教科書の熟読する。 事前学習時間：300分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施せず</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p>	*大峰 浩隆 *伏見 習 *鈴木 麻由 *西村 均 *久山 佳代 *三枝 禎 *岡田 裕之 *宇都宮 忠彦 *齋藤 真規 *伊東 浩太郎

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/08/21 (水) 2時限 10:40～12:10	平常試験②と解説 講義	<p>歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 顎骨に発生する嚢胞性疾患の病態・診断・治療 a 歯原性嚢胞</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (3) 炎症 ①歯性感染症の原因菌と感染経路を説明できる。 ②急性炎症と慢性炎症の異同を説明できる。 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 ①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 E-2-4) - (5) 嚢胞 ①口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する嚢胞の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	<p>*大峰 浩隆 *伏見 習 *鈴木 麻由 *西村 均 *久山 佳代 三枝 禎 岡田 裕之 *宇都宮 忠彦 *齋藤 真規 *伊東 浩太郎</p>
2024/09/12 (木) 1時限 09:00～10:30	非歯原性良性腫瘍 非歯原性悪性腫瘍	<p>【授業の一般目標】 非歯原性良性腫瘍、非歯原性悪性腫瘍について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 非歯原性良性腫瘍を分類できる。 3. 非歯原性良性腫瘍の特徴を説明できる。 4. 非歯原性悪性腫瘍を分類できる。 5. 非歯原性悪性腫瘍の特徴を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書口腔外科学4版、顎骨の腫瘍の熟読する。 事前学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 b 歯原性悪性腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 顎骨に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 d 非歯原性悪性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法 (細胞診、組織診、画像診断) 及び治療法を説明できる。 ④腫瘍類似疾患の種類と特徴を説明できる。</p>	<p>*末光 正昌 *伏見 習</p>
2024/09/12 (木) 2時限 10:40～12:10	非歯原性良性腫瘍 非歯原性悪性腫瘍	<p>【授業の一般目標】 非歯原性良性腫瘍、非歯原性悪性腫瘍について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 非歯原性良性腫瘍を分類できる。 3. 非歯原性良性腫瘍の特徴を説明できる。 4. 非歯原性悪性腫瘍を分類できる。 5. 非歯原性悪性腫瘍の特徴を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：口腔外科学4版、腫瘍についての熟読する。 事前学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室</p>	<p>*末光 正昌 *伏見 習</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/09/12 (木) 2時限 10:40～12:10	非歯原性良性腫瘍 非歯原性悪性腫瘍	<p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 a 歯原性良性腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 b 非歯原性良性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。</p>	*末光 正昌 *伏見 習
2024/09/19 (木) 1時限 09:00～10:30	前癌状態 腫瘍類似疾患	<p>【授業の一般目標】 前癌状態と腫瘍類似疾患について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 前癌状態の概念を理解し、特徴を説明できる。 3. 腫瘍類似疾患と腫瘍性疾患の鑑別を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書で前癌病変と前癌状態の違い、腫瘍類似疾患の種類について確認しておく。 事前学習時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>パワーポイントを用いて、講義する</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 k 白板症</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 c 口腔癌 l 紅板症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ⑤前癌病変の特徴、症状及び治療法を説明できる。 ⑥前癌状態の種類と特徴を列挙できる。</p>	岡田 裕之 酒巻 裕之
2024/09/19 (木) 2時限 10:40～12:10	唾液腺腫瘍	<p>【授業の一般目標】 唾液腺腫瘍について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 唾液腺腫瘍の病理組織学的な特徴を説明できる。 3. 唾液腺腫瘍の臨床的特徴と治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書唾液腺腫瘍について熟読する。 事前学習時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p>	*田中 茂男 *宇都宮 忠彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/09/19 (木) 2時限 10:40～12:10	唾液腺腫瘍	<p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態・診断・治療 g 良性腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態・診断・治療 h 悪性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ④唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ⑤腫瘍類似疾患を概説できる。</p>	*田中 茂男 *宇都宮 忠彦
2024/09/26 (木) 1時限 09:00～10:30	超音波検査、核医学検査による顎口腔領域の画像診断	<p>【授業の一般目標】 超音波検査、核医学検査の画像診断を適切に行うために必要な知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.超音波検査による顎顔面軟組織領域の正常および異常像の画像所見を説明できる。 3.核医学検査による顎顔面領域の正常および異常像の画像所見を説明できる。 4.超音波検査、核医学検査の利点・欠点を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：歯科放射線学の教科書の熟読する。 事前学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング 無 学修媒体：スライド</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VI 検査 2 画像検査 キ 核医学検査 a 原理、特徴、順応</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論VI 検査 2 画像検査 ク 超音波検査 a 原理、特徴、適応</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-2) 画像検査を用いた診断 ⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法(computed tomography <CT>)、歯科用コーンビームCT、磁気共鳴撮像法(magnetic resonance imaging <MRI>)及び核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。</p>	*伊東 浩太郎
2024/09/26 (木) 2時限 10:40～12:10	CT、MRIによる顎口腔領域の画像診断	<p>【授業の一般目標】 CT、MRIによる顎口腔領域の画像診断を適切に行うために知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. CT、MRIによる顎口腔の正常像を述べるができる。 3. CTによる顎口腔領域の画像診断ができる。 4. MRIによる顎口腔領域の画像診断ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：歯科放射線学の教科書の熟読する。 事前学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：有（反転授業） 学修媒体：スライド</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p>	*金田 隆

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/09/26 (木) 2時限 10:40~12:10	CT、MRIによる顎 口腔領域の画像診 断	<p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VI 検査 2 画像検査 オ CT a 原理、特徴、適応</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論VI 検査 2 画像検査 カ MRI a 原理、特徴、適応</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-2) 画像検査を用いた診断 ⑨造影検査法、超音波検査法、コンピュータ断層撮影法(computed tomography <CT>)、歯科用コーンビームCT、磁気共鳴撮像法(magnetic resonance imagin g <MRI>)及び核医学検査法の原理と基本的特徴を説明できる。</p>	*金田 隆
2024/10/03 (木) 1時限 09:00~10:30	口腔癌の臨床病態 口腔癌の転移	<p>【授業の一般目標】 口腔癌の臨床病態、口腔癌の転移について説明できるようになるために学修する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔癌の臨床病態とくに発生部位別特徴を説明できる。 3. 口腔癌の転移の様相を説明できる。 4. TNM分類、病期分類を列記できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：口腔癌の臨床病態、転移について教科書を熟読する。 事前学習時間：60分 事後学習項目：講義内容、授業プリント、教科書の復習 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 c 口腔癌</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 d 口唇癌 e 上顎洞癌</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。</p>	八木原 一博
2024/10/03 (木) 2時限 10:40~12:10	口腔癌の診断 口腔癌の外科的治 療	<p>【授業の一般目標】 口腔癌の診断、口腔癌の外科的治療について説明できるようになるために学修する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔癌の細胞診、生検などの検査法を列記できる。 3. 口腔癌の臨床的診断過程を説明できる。 4. 口腔癌の外科的治療を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：口腔癌の診断および治療法（外科治療）について教科書を熟読する。 事前学習時間：60分 事後学習項目：講義内容、授業プリント、教科書の復習をする。 事後学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p>	八木原 一博

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/10/03 (木) 2時限 10:40~12:10	口腔癌の診断 口腔癌の外科的治療	<p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する診断・治療 a TNM分類、病期分類</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 カ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する診断・治療 b 外科療法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。</p>	八木原 一博
2024/10/10 (木) 1時限 09:00~10:30	唾液腺の特徴と唾液腺疾患の診断法 唾液腺疾患の種類と治療①	<p>【授業の一般目標】 唾液腺の特徴と唾液腺疾患の診断法、唾液腺疾患の種類と治療について説明できるようにするために学修する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 唾液腺の解剖学的、生理学的特徴について理解する。 3. 唾液腺疾患の診断法を理解する。 4. 唾石の成因、形態学的特徴を説明できる。 5. 唾石症の症状、治療法を説明できる。 6. 唾液腺の炎症性疾患について理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：大唾液腺の分類と神経支配、および唾石症の診断と治療法について教科書を熟読する。 事前学修時間：1時間 事後学習項目：授業プリント、教科書の確認をする。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニングの有無：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態・診断・治療 k 唾石症</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態・診断・治療 d 唾液腺炎、唾液管炎 e Sjögren症候群 g 良性腫瘍 h 悪性腫瘍 j IgG4関連疾患 l 口腔乾燥症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ①唾液腺の発育異常を概説できる。 ②唾石症の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ③唾液腺炎の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ④唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ⑤腫瘍類似疾患を概説できる。 ⑥ウイルス性唾液腺炎の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ⑦Sjögren 症候群の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*田中 茂男
2024/10/10 (木) 2時限 10:40~12:10	口腔癌のトランスレーショナル・レサーチ	<p>【授業の一般目標】 口腔癌のトランスレーショナル・レサーチについて説明できるようにするために学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 口腔癌の遺伝子診断および遺伝子導入療法等に関する最先端医療について概説する。</p>	鵜澤 一弘

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/10/10 (木) 2時限 10:40～12:10	口腔癌のトランスレーショナル・レサーチ	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書の熟読する。 事前学習時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 9 その他の治療法 オ 免疫療法</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 キ 顎骨に発生する腫瘍・腫瘍類似疾患に対する診断と治療 a 顎骨腫瘍の外科療法 b 顎骨の再建</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。</p>	鶴澤 一弘
2024/10/17 (木) 1時限 09:00～10:30	唾液腺疾患の種類と治療② 唾石症、唾液腺炎、流行性耳下腺炎、シェーグレン症候群、唾液腺疾患の病理組織学的特徴、画像所見	<p>【授業の一般目標】 唾液腺疾患の種類と治療について説明できるようになるために学修する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. シェーグレン症候群の特徴、症状、治療法を説明できる。 3. 唾液腺の非腫瘍性疾患について理解する。 4. 唾液腺疾患の病理組織学的特徴を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：シェーグレン症候群の診断基準、唾液腺の炎症性疾患について。 事前学修時間：30分 事後学習項目：授業プリント、教科書の確認をする。 事後学習時間：50分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態・診断・治療 e Sjögren症候群</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ア 唾液腺疾患の病態・診断・治療 d 唾液腺炎、唾液管炎 1 口腔乾燥症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ③唾液腺炎の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ⑤腫瘍類似疾患を概説できる。 ⑥ウイルス性唾液腺炎の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ⑦Sjögren 症候群の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	* 田中 茂男 * 宇都宮 忠彦
2024/10/17 (木) 2時限 10:40～12:10	口腔乾燥症（ドライマウス）と関連する疾患	<p>【授業の一般目標】 口腔乾燥症（ドライマウス）と関連する疾患について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 口腔乾燥症（ドライマウス）の原因について説明できる。</p>	* 鈴木 麻由

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/10/17 (木) 2時限 10:40～12:10	口腔乾燥症（ドライマウス）と関連する疾患	<p>3. 口腔乾燥症（ドライマウス）の症状について説明できる。 4. 口腔乾燥症（ドライマウス）と関連する疾患を説明できる。 5. シェーグレン症候群の特徴、症状および治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 口腔乾燥症（ドライマウス）について説明できる。 事前学習項目：教科書の熟読する。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ク 口腔粘膜疾患の病態・診断・治療 q 口腔乾燥症</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 口腔症状を呈する自己免疫疾患 d Sjögren症候群</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ⑦Sjögren 症候群の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*鈴木 麻由
2024/10/24 (木) 1時限 09:00～10:30	平常試験③と解説講義	<p>【授業の一般目標】 平常試験③ 90分間の試験</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎口腔領域の腫瘍・腫瘍類似疾患を説明できる。 3. 唾液腺疾患を説明できる。 4. 顎口腔の画像診断の種類と読影ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 「非歯原性腫瘍」から「口腔癌の外科的治療」までの範囲 事前学習項目：授業プリント、教科書の熟読する。 事前学習時間：300分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施せず</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 a 歯原性良性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ①口腔・顎顔面領域に発生する腫瘍の種類と特徴を説明できる。 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ④腫瘍類似疾患の種類と特徴を説明できる。 ⑤前癌病変の特徴、症状及び治療法を説明できる。 ⑥前癌状態の種類と特徴を列挙できる。</p>	*大峰 浩隆 *田中 茂男 *伏見 習 *鈴木 麻由
2024/10/24 (木) 2時限 10:40～12:10	平常試験③と解説講義	<p>【授業の一般目標】 平常試験③</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎口腔領域の腫瘍・腫瘍類似疾患を説明できる。 3. 唾液腺疾患を説明できる。</p>	*大峰 浩隆 *田中 茂男 *伏見 習 *鈴木 麻由 *金田 隆佳 *宇都宮 忠彦 *末光 正昌

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/10/24 (木) 2時限 10:40～12:10	平常試験③と解説 講義	<p>4. 顎口腔の画像診断の種類と読影ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 「非歯原性腫瘍」から「口腔癌の外科的治療」までの範囲 事前学習項目：授業プリント、教科書の熟読する。 事前学習時間：300分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 オ 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 a 歯原性良性腫瘍</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 唾液腺疾患 ①唾液腺の発育異常を概説できる。 ②唾石症の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ③唾液腺炎の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ④唾液腺腫瘍の種類、特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。 ⑤腫瘍類似疾患を概説できる。 ⑥ウイルス性唾液腺炎の特徴、症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*伊東 浩太郎
2024/10/31 (木) 1時限 09:00～10:30	顎関節の疾患	<p>【授業の一般目標】 顎関節症の診断、治療ができるようになるために、顎関節症の病態とそれに対する治療方法を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎関節疾患における顎関節症を説明できる。 3. 顎関節症と鑑別を要する疾患について説明できる。 4. 顎関節症の病態分類を説明できる。 5. 病態分類別の症状を説明できる。 6. 各病態の画像検査所見を説明できる。 7. 顎関節症に対する治療方法について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書の熟読する。 事前学習時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診断・治療 1 顎関節症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 顎関節疾患 ①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 ②顎関節疾患（発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患）の症状、診断法及び治療法を説明できる。 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 ⑥顎関節の構造と機能を説明できる。 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 顎関節疾患 ②顎関節疾患（発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患）の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*内田 貴之
2024/10/31 (木) 2時限 10:40～12:10	顎関節の疾患	<p>【授業の一般目標】 顎関節の疾患について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎関節疾患の外科的治療を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p>	*渡邊 駿

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/10/31 (木) 2時限 10:40～12:10	顎関節の疾患	<p>事前学習項目：口腔外科学4版、顎関節疾患について熟読する。 事前学習時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診断・治療 1 顎関節症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (7) 顎関節疾患 ①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 ②顎関節疾患（発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患）の症状、診断法及び治療法を説明できる。</p>	*渡邊 駿
2024/11/14 (木) 1時限 09:00～10:30	顎顔面の神経支配	<p>【授業の一般目標】 顎顔面の神経支配を述べるができるようになるために復習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎顔面の知覚、運動神経支配を理解する。 3. 自律神経を理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書、口腔外科学4版、頭頸部の解剖学の熟読する。 事前学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢変化 4 頭頸部の構造 カ 頭頸部の神経系 a 脳神経</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 人体の構造と機能 C-3-4) 身体を構成する組織と器官 C-3-4) - (4) 血液・リンパと循環器系 ②血液循環（肺循環、体循環及び胎児循環）の経路と主要な動静脈の名称を説明できる。 C-3-4) - (5) 神経系 ①末梢神経系の種類、走行及び支配領域を説明できる。 ③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。</p>	*飯塚 普子
2024/11/14 (木) 2時限 10:40～12:10	心因性疾患, 心身症, 心身医学	<p>【授業の一般目標】 心因性疾患, 心身症, 心身医学について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 心因性疾患, 心身症, 心身医学について理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書の熟読する。 事前学習時間：20分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患</p>	和氣 裕之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/11/14 (木) 2時限 10:40～12:10	心因性疾患, 心身症, 心身医学	3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 神経・運動器疾患の病態・診断・治療 f 非菌原性歯痛 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-5 高齢者、障害者、精神・心身医学的疾患 E-5-3) 精神・心身医学的疾患 ①心身相関を説明できる。 ②口腔顔面領域に関連して現れる精神・心身医学的病態を説明できる。 ③心理テストの目的と意義を説明できる。 ④舌痛症を説明できる。 ⑤歯科治療恐怖症を説明できる。 ⑥心身医学的治療を説明できる。	和氣 裕之
2024/11/21 (木) 1時限 09:00～10:30	血液疾患	【授業の一般目標】 各種血液疾患について説明できるようになるために学習する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 悪性リンパ腫の臨床的病態を述べるができる。 3. 多発性骨髄腫の臨床的病態を述べるができる。 4. 多発性骨髄腫の特徴的な臨床検査データを列挙できる。 5. 無顆粒球症の臨床的病態を述べるができる。 6. 無顆粒球症の特徴的な臨床検査データを列挙できる。 7. GVHD の臨床的病態を述べるができる。 8. GVHD の原因・対策を述べるができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：人体の血液成分、人体の白血球の種類、各種白血球の働きについて確認しておく。 事前学習時間：40分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ス 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 d 血液・造血器疾患 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 4 主として全身に関連する疾患の病態・診断・治療 ケ 白血球系疾患 d 多発性骨髄腫 c 特発性血小板減少性紫斑病 (免疫性血小板減少性紫斑病) (ITP) 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-6 医師と連携するために必要な医学的知識 ①全身の症候・病態を説明できる。	*福本 雅彦
2024/11/21 (木) 2時限 10:40～12:10	補綴前処置の外科 小帯切除術 義歯性線維腫の切除手術 迷入歯の摘出手術 上顎洞根治手術 上顎洞口腔瘻閉鎖術	【授業の一般目標】 補綴前処置の外科, 小帯切除術, 義歯性線維腫の切除手術, 迷入歯の摘出手術, 上顎洞根治手術, 上顎洞口腔瘻閉鎖術について説明できるようになるために学習する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する 2. 各小帯の異常により発症する障害を理解する。 3. 口腔外科における補綴前処置である小帯切除手術の適応症と術式を述べることができる。 4. 義歯性線維腫の定義, 原因を理解し, 臨床的な病態像を述べることができる。 5. 抜歯の偶発症のひとつである歯の迷入の原因を理解し, 迷入歯摘出術術式を述べるができる。 6. 歯性上顎洞炎を理解し上顎洞根治手術と上顎洞口腔瘻閉鎖術の適応基準, 術式を説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 顎口腔外科領域の補綴前処置の外科, 迷入歯の摘出手術について説明できる。 顎口腔外科領域の上顎洞根治手術, 上顎洞口腔瘻閉鎖術について説明できる。 事前学習項目：教科書の熟読する。 事前学習時間：20分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】	*芹澤 多恵

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/11/21 (木) 2時限 10:40～12:10	補綴前処置の外科 小帯切除術 義歯性線維腫の切 除手術 迷入歯の摘出手術 上顎洞根治手術 上顎洞口腔瘻閉鎖 術	202教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 f 抜歯、口腔の小手術 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-5) 小手術 ②小手術の合併症（偶発症）を説明できる。 ③小手術に必要な器具の用法と基本手技を説明できる。 ④粘膜の切開、剥離に必要な器具の用法を説明できる。 ⑤縫合と止血に必要な器具の用法を説明できる。 ⑥埋伏歯（智歯を含む）の抜去法を説明できる。	*芹澤 多恵
2024/11/28 (木) 1時限 09:00～10:30	口腔外科演習オリ エンテーション	【授業の一般目標】 口腔外科臨床で行う基本的手技ができるようになるために学修する。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭頸部の診察ができる。 3. 手指消毒ができる。 4. 浸潤麻酔ができる。 5. 単純抜歯ができる。 6. 縫合ができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目： 事前学習時間：0分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅴ 診察 1 診察総論 イ 診察の基本 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅴ 診察 1 診察総論 ウ 全身の診察 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 b 消毒と滅菌 d 止血法、縫合法 f 抜歯、口腔の小手術 【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-3 基本的臨床技能 ①局所麻酔（表面麻酔・浸潤麻酔）を実施できる。 ②永久歯の単純抜歯を実施できる。	*飯塚 普子 *山本 泰
2024/11/28 (木) 2時限 10:40～12:10	外傷全般	【授業の一般目標】 外傷の診断・治療法について説明できるようになるために学習する。 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 骨折について説明できる。 3. 歯の脱臼について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書、外傷について前期資料の確認をする。不足分は教科書を確認する。 事前学習時間：20分以上 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患	*青木 暁宣

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/11/28 (木) 2時限 10:40～12:10	外傷全般	<p>2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療 c 下顎骨骨折</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 1 主として軟組織に関連する疾患の病態・診断・治療 イ 軟組織の損傷の病態・診断・治療 a 口腔軟組織の損傷 2 主として硬組織に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷の病態・診断・治療 b 歯槽骨骨折 d 上顎骨骨折 e 頬骨・頬骨弓骨折</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。</p>	*青木 暁宣
2024/12/05 (木) 1時限 09:00～10:30	局所麻酔 実習説明	<p>【授業の一般目標】 局所麻酔法について説明できるようになるために学習する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 「臨床経験に基づき以下の内容を教授する。」 2. 局所麻酔法の種類、手技を概説できる。 3. 頭頸部の診察法について説明できる。 4. 手指消毒法を理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学修項目：頭頸部の診察法、手指消毒法、局所麻酔法である浸潤麻酔法、伝達麻酔法について説明できるよう学習する 事前学修時間：30分 事後学修項目：教科書及び実習書を用いて授業内容を確認し学習する。 事後学修時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：なし 学修媒体：教科書、実習書</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅴ 診察 1 診察総論 ウ 全身の診察</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅴ 診察 1 診察総論 イ 診察の基本 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ウ 麻酔 a 局所麻酔</p> <p>【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ②全身状態を評価し、顎顔面及び口腔内の診察ができる。 G-3 基本的臨床技能 ①局所麻酔（表面麻酔・浸潤麻酔）を実施できる。</p>	*濱野 美緒
2024/12/05 (木) 2時限 10:40～12:10	演習1 頭頸部の診察 手指消毒 単純拔牙に使用する器具	<p>【授業の一般目標】 頭頸部の診察、手指消毒、が実施できるようになるために必要な技能を習得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭頸部の診察に必要な技能、態度を習得する。 3. 手指消毒法を習得する。 4. 単純拔牙に必要な器具器材について説明できる。 5. 浸潤麻酔ができる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：実習書の熟読する。 事前学習時間：20分 事後学習項目：実習書の確認をする。 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p>	*大峰 浩隆 *山本 泰 *飯塚 普子 *西村 均 *濱野 美緒 *山口 桜子 石井 達郎 酒巻 裕之 *池谷 美和 釜崎 直人 菅谷 和之 野上 俊雄 村井 正彦 北村 英二 八木原 一博 田島 秀人 *渡邊 由梨子 張 ウエ嘉聡 *岩井 聡 *野田 一 *伏見 習

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/12/05 (木) 2時限 10:40～12:10	演習1 頭頸部の診察 手指消毒 単純拔牙に使用する器具	実施せず 相互実習、器具を用いた実習 【学修方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論V 診察 1 診察総論 イ 診察の基本 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 b 消毒と滅菌 f 拔牙、口腔の小手術 a 局所麻酔 【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ②全身状態を評価し、顎顔面及び口腔内の診察ができる。 G-3 基本的臨床技能 ①局所麻酔(表面麻酔・浸潤麻酔)を実施できる。 E 臨床歯学 E-1 診療の基本 E-1-5) 小手術 ⑥手指と術野の消毒法を説明できる。	*芹澤 多恵 *鈴木 麻由
2024/12/12 (木) 1時限 09:00～10:30	拔牙学	【授業の一般目標】 拔牙について説明できるようになるために必要な知識を習得する。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 拔牙の適応症、禁忌症を説明できる。 3. 拔牙の偶発症を説明できる。 4. 拔牙の手技を説明できる。 5. 単純拔牙、難拔牙、埋伏歯の拔牙について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：教科書・実習書を熟読する。 事前学習時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア 【学修方略 (LS)】 講義 【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VII 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 f 拔牙、口腔の小手術 【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-3 基本的臨床技能 ②永久歯の単純拔牙を実施できる。	*芹澤 多恵
2024/12/12 (木) 2時限 10:40～12:10	演習2 局所麻酔 拔牙	【授業の一般目標】 局所麻酔と拔牙が実施できるようになるために必要な技能を身につける。 【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 局所麻酔の手技を説明できる。 3. 局所麻酔が実施できる。 4. 適切な拔牙鉗子を選択できる。 5. 拔牙操作が実施できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：実習書の熟読する。 事前学習時間：20分 事後学習項目：実習書の確認をする。 事後学習時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 相互実習、実際の診療用器具を用いた実習 【学修方略 (LS)】 演習 【場所 (教室/実習室)】	*大峰 浩隆 *山本 泰 *飯塚 普子 *西村 均 *濱野 美緒 *山口 桜子 石井 達郎 酒巻 裕之 *池谷 美和 釜崎 直人 菅谷 和之 野上 俊雄 村井 正彦 八木原 一博 田島 秀人 北村 英二 *渡邊 由梨子 張 ウエ嘉聡 *岩井 聡 *野田 一 *伏見 習 *芹澤 多恵 *鈴木 麻由

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/12/12 (木) 2時限 10:40～12:10	演習2 局所麻酔 抜歯	202教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 f 抜歯、口腔の小手術 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 c 切開法 d 止血法、縫合法 f 抜歯、口腔の小手術 a 局所麻酔 【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-3 基本的臨床技能 ①局所麻酔(表面麻酔・浸潤麻酔)を実施できる。 ②永久歯の単純抜歯を実施できる。	*大峰 浩隆 *山本 泰 *飯塚 普子 *西村 均 *濱野 美緒 *山口 桜子 石井 達郎 酒巻 裕之 *池谷 美和 釜崎 直人 菅谷 和之 野上 俊雄 村井 正彦 八木原 一博 田島 秀人 北村 英二 *渡邊 由梨子 張 ウエ 嘉聡 *岩井 聡一 *伏見 一習 *芹澤 多恵 *鈴木 麻由
2024/12/19 (木) 1時限 09:00～10:30	抜歯学 切開縫合	【授業の一般目標】 単純抜歯、複雑抜歯、埋伏歯の抜歯について説明できるようになるために学習する。 【行動目標（SBOs）】 1.臨床経験に基づき、以下の内容を教授する。 2.粘膜切開について説明できる。 3.粘膜の剥離について説明できる。 4.歯肉粘膜、皮膚の解剖学的特徴を理解する。 5.抜歯患者の患者管理について説明できる。 6.すべての抜歯の手順を説明できる。 7.縫合について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：実習書の抜歯の項目について理解してくる。 事前学習時間：30分 事後学習項目：実習書と授業プリントの復習。 事後学習時間：60分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学修媒体：マルチメディア 【学修方略（LS）】 講義 【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 f 抜歯、口腔の小手術 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 d 止血法、縫合法 f 抜歯、口腔の小手術 h 創の管理 【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-3 基本的臨床技能 ②永久歯の単純抜歯を実施できる。 ③軟組織の小手術を実施できる。	*山口 桜子
2024/12/19 (木) 2時限 10:40～12:10	演習3 抜歯学 手指消毒 縫合 局所麻酔 頭頸部診察	【授業の一般目標】 抜歯と付随する縫合操作ができるようになるために必要な技能を習得する。 【行動目標（SBOs）】 1.臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2.抜歯の手技を説明できる。 3.抜歯器具を選択できる。 4.切開操作ができる。 5.縫合について説明できる。 6.縫合ができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：実習書の熟読する。 事前学習時間：20分 事後学習項目：実習書の確認をする。 事後学習時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】	*大峰 浩隆 *山本 泰 *飯塚 普子 *西村 均 *濱野 美緒 *山口 桜子 石井 達郎 酒巻 裕之 *池谷 美和 釜崎 直人 菅谷 和之 野上 俊雄 村井 正彦 八木原 一博 田島 秀人 北村 英二 *渡邊 由梨子 張 ウエ 嘉聡 *岩井 聡

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2024/12/19 (木) 2時限 10:40～12:10	演習3 拔牙学 手指消毒 縫合 局所麻酔 頭頸部診察	相互実習、診療用器具を用いた実習 【学修方略 (L S)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論V 診察 1 診察総論 イ 診察の基本 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 c 切開法 d 止血法、縫合法 f 拔牙、口腔の小手術 【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-3 基本的臨床技能 ①局所麻酔(表面麻酔・浸潤麻酔)を実施できる。 ②永久歯の単純拔牙を実施できる。	*野田 一 *伏見 習 *芹澤 多恵 *鈴木 麻由
2025/01/09 (木) 1時限 09:00～10:30	演習4 頭頸部診察、手指消毒、局所麻酔、拔牙学、縫合	【授業の一般目標】 頭頸部診察、手指消毒、局所麻酔、拔牙、縫合ができるようになるために実習をする。 【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭頸部診察ができる。 3. 手指消毒ができる。 4. 局所麻酔ができる。 5. 拔牙ができる。 6. 縫合ができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：実習書の熟読する。 事前学習時間：20分 事後学習項目：実習書の確認をする。 事後学習時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 相互実習、診療用器具を用いた実習 【学修方略 (L S)】 演習 【場所 (教室/実習室)】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論V 診察 1 診察総論 イ 診察の基本 【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VII 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 b 消毒と滅菌 c 切開法 d 止血法、縫合法 f 拔牙、口腔の小手術 【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ②全身状態を評価し、顎顔面及び口腔内の診察ができる。 G-3 基本的臨床技能 ①局所麻酔(表面麻酔・浸潤麻酔)を実施できる。 ②永久歯の単純拔牙を実施できる。	*大峰 浩隆 *山本 泰 *飯塚 普子 *西村 均 *濱野 美緒 *山口 桜子 *渡邊 由梨子 *野田 一 *伏見 習 *芹澤 多恵 *鈴木 麻由
2025/01/09 (木) 2時限 10:40～12:10	演習5 頭頸部診察、手指消毒、局所麻酔、拔牙学、縫合	【授業の一般目標】 頭頸部診察、手指消毒、局所麻酔、拔牙、縫合ができるようになるために実習をする。 【行動目標 (S B O s)】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 頭頸部診察ができる。 3. 手指消毒ができる。 4. 局所麻酔ができる。 5. 拔牙ができる。 6. 縫合ができる。 【準備学修項目と準備学修時間】 事前学習項目：実習書の熟読する。 事前学習時間：20分	*大峰 浩隆 *山本 泰 *飯塚 普子 *西村 均 *濱野 美緒 *山口 桜子 *渡邊 由梨子 *野田 一 *伏見 習 *芹澤 多恵 *鈴木 麻由

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/01/09 (木) 2時限 10:40～12:10	演習5 頭頸部診察、手指 消毒、局所麻酔、 拔牙学、縫合	事後学習項目：実習書の確認をする。 事後学習時間：30分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 相互実習、診療用器具を用いた実習 【学修方略（LS）】 演習 【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論V 診察 1 診察総論 イ 診察の基本 【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論VII 治療 4 手術・周術期の管理、麻酔 ア 手術 b 消毒と滅菌 c 切開法 d 止血法、縫合法 f 拔牙、口腔の小手術 【コアカリキュラム】 G 臨床実習 G-2 基本的診療法 ②全身状態を評価し、顎顔面及び口腔内の診察ができる。 G-3 基本的臨床技能 ①局所麻酔(表面麻酔・浸潤麻酔)を実施できる。 ②永久歯の単純拔牙を実施できる。	*大峰 浩隆 *山本 泰 *飯塚 普子 *西野 均 *濱野 美緒 *山口 桜子 *渡邊 由梨子 *野田 一 *伏見 習 *芹澤 多恵 *鈴木 麻由
2025/01/16 (木) 1時限 09:00～10:30	平常試験④と解説 講義	【授業の一般目標】 平常試験④ 90分間の試験 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎関節疾患が説明できる。 3. 神経疾患が説明できる。 4. 手術について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 「顎関節疾患」から最後まで。演習は除く 事前学習項目：授業プリント、教科書の熟読する。 事前学習時間：300分 【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施せず 【学修方略（LS）】 その他 【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室 【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論III 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診断・治療 1 顎関節症 【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ②口腔・顎顔面領域に発生する良性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 E-2-4)-(7) 顎関節疾患 ①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 ②顎関節疾患（発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患）の症状、診断法及び治療法を説明できる。 E-2-4)-(9) 神経疾患 ①口腔顔面痛を説明できる。	*大峰 浩隆 *濱野 美緒 *山口 桜子 *飯塚 普子 *芹澤 多恵
2025/01/16 (木) 2時限 10:40～12:10	平常試験④と解説 講義	【授業の一般目標】 平常試験④ 【行動目標（SBOs）】 1. 臨床経験に基づき以下の内容を教授する。 2. 顎関節疾患を説明できる。 3. 神経疾患について説明できる。 4. 手術の基本について説明できる。 【準備学修項目と準備学修時間】 「顎関節疾患」から最後まで。演習は除く 事前学習項目：授業プリント、教科書の熟読する。 事前学習時間：300分	*大峰 浩隆 *福本 雅彦 *内田 貴之 *飯塚 普子 *濱野 美緒 *山口 桜子 *芹澤 多恵

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2025/01/16 (木) 2時限 10:40~12:10	平常試験④と解説 講義	<p>事後学習項目：授業プリント、教科書の確認をする。 事後学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 実施なし</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 202教室、第2実習室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患 3 主として機能に関連する疾患の病態・診断・治療 ウ 顎関節・咀嚼筋疾患の病態・診断・治療 1 顎関節症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学 E-2 口腔・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4 口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(6) 腫瘍及び腫瘍類似疾患 ③口腔・顎顔面領域の悪性腫瘍の一般的な症状、診断法（細胞診、組織診、画像診断）及び治療法を説明できる。 E-2-4)-(7) 顎関節疾患 ①顎関節疾患の種類と特徴を説明できる。 ②顎関節疾患（発育異常、外傷、炎症、退行性顎関節疾患、顎関節症、顎関節強直症、腫瘍及び腫瘍類似疾患）の症状、診断法及び治療法を説明できる。 E-2-4)-(9) 神経疾患 ①口腔顔面痛を説明できる。 ②三叉神経痛の原因、症状及び治療法を説明できる。 ③顔面神経麻痺の原因、症状及び治療法を説明できる。 ④三叉神経麻痺（感覚麻痺、運動麻痺）の原因、症状及び治療法を説明できる。</p>	<p>*大峰 浩隆 *福本 雅彦 *内田 貴之 *飯塚 普子 *濱野 美緒 *山口 桜子 *芹澤 多恵</p>